

厚真消防出初式式辞

平成 30 年 1 月 6 日

平成 30 年の輝かしい新春を迎え、本日ここに多くの関係機関のご参加をいただき、恒例の厚真消防出初め式をかくも盛大に挙行できますことは、私どもにとって大きな喜びとするところであります。

先ほどは、消防職・団員一致協力のもと気も心も新たに、寒風の中威風堂々と分列行進を展開していただきましたが、晴れがましい表情の中にも伝統を誇る厚真消防の面目を遺憾なく発揮されており、よく錬成された消防技術と精鋭な機械力をもって緊急の備え万全であると地域住民の信頼をより確かなものとしていただいたと心強く感じたところであります。

皆様は崇高な消防精神と強い責任感を持って、地域住民の生命財産を保護するため日夜献身的な活動を続けていただいております。特に消防団員の皆様には、社会奉仕の精神を持って多忙な生業のかたわら研鑽を積まれ、本町の消防力の維持向上と安全・安心な地域づくりに貢献していただいております。ここに改めて深く敬意と感謝の意を表します。

また、永年勤続と数々のご功績により、表彰の栄に浴されました皆様に対し、改めてお祝いを申しあげますとともに、今後益々のご活躍をご期待申し上げるところであります。

昨年は、江別市で開催された北海道消防操法訓練大会において、厚真消防団が小型ポンプ操法の部に出場する貴重な機会を得て厚真消防団の歴史に新たな一ページが綴られました。全団員が一致協力のもと、風の日も雨の日も休むことなく訓練を重ね、当日は訓練の成果をいかに発揮されたものであり、この訓練を通して消防団員の団結力と団と職員との信頼がさらに強くなったものと確信しています。

今年は、自治体消防制度発足 70 周年を迎えます。この間、消防行政・組織は、関係各位のたゆまぬ努力の積み重ねにより、高度化・広域化を図りながら発展し、国民の期待・信頼に応えてまいりました。しかしながら、自然災害は様々なところで猛威を振るい、日本各地に甚大な被害をもたらしています。加えて、昨年は北朝鮮のミサイルが北海道上空を 2 度も通過するなど、安全・安心を脅かすリスクは更に多様化しています。プレート型や活断層による巨大地震、活火山を原因とする災害の発生は確実でありながら正確な予知は困難とされる中、厚真町においては、昨年の『世界津波の日』に合わせて大規模な防災訓練を実施しました。東日本大震災以後、消防団を中核とした地域防災力の充実強化が求められていますが、その効果を最大化するためにも、地域住民とともに自助・互助や減災といった視点の取り組みを強化していかなければなりません。

古からの言い伝えにありますように、災害は忘れた頃にやっけてまいりますし、備えあれば憂いなしと申します。いついかなる災害が起きようともこれに素早く対処し、災害から人々の生命財産を守るためには、常日頃からの備えが十分でなければなりません。地方財

政の環境が厳しさを増す中、それを補う職・団員各位の不断の努力が不可欠であります。また、日々の錬成は、消防組織の活動の成果を高めるだけでなく、危険な災害現場という最前線にある消防職・団員の命を守ることもつながりますので、本日の出初め式を契機に、皆様にはなお一層の研鑽と団結をお願いするものであります。

本日ご参会の関係機関そして町民の皆様には、改めて消防防災行政の円滑な推進と消防職・団員の士気高揚のため、これまでと変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、皆様方が地域防災のリーダーとして益々ご活躍されますことと、本日も臨席の皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げまして、式辞といたします。